



## インストール前の作業

- [Cisco Unified Communications Manager のインストール前タスク \(1 ページ\)](#)
- [IM and Presence Service のインストール前の作業 \(4 ページ\)](#)
- [Cisco AXL Web サービスの有効化 \(5 ページ\)](#)
- [DNS 登録の確認 \(6 ページ\)](#)

## Cisco Unified Communications Manager のインストール前 タスク

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">設置の計画</a>	計画の章を参照してください。次のことを確認する確認します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• インストール方法を決定します。</li><li>• クラスタトポロジを決定します。</li><li>• IM and Presence の場合、標準的な導入と、IM and Presence Service 中央クラスタを含めるインストールのどちらにするかを決定します。</li><li>• 要件および制約事項を確認します。</li></ul>
ステップ 2	<a href="#">必要なインストール情報</a>	インストールを予定している各サーバのインストール要件を確認し、設定内容を記録します。
ステップ 3	仮想マシンを作成します。	<ul style="list-style-type: none"><li>• 基本 OVA を入手します。</li></ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Collab Sizing Tool を実行して、必要な仮想マシンの数と各仮想マシンの仕様を取得します。Collab Sizing Tool を実行したくない場合は、OVA readme と OVA ウィザードのガイダンスに従って、事前定義の開始点を選択します。これは、必要に応じて後で変更できます。</li> <li>• Business Edition アプライアンスの工場出荷時にプリロードされたスキップインストール OVA からインストールする場合は、<i>Installation Guide for Cisco Business Edition 6000</i> または <i>Installation Guide for Cisco Business Edition 7000</i> を参照してください。</li> </ul>
ステップ 4	インストール ISO ファイルをマウントします。	<p>仮想マシンがアクセスできる場所にインストール ISO ファイルを配置し、仮想マシンの DVD ドライブをファイルにマッピングします。仮想マシンの電源投入時に DVD ドライブをマウントするオプションを選択します。</p> <p>仮想マシンをオンにすると、ISO がマウントされ、インストールプロセスが開始されます。この手順をすべて完了するまで、インストールプロセスを開始しないでください。</p>
ステップ 5	サーバ間のリンクが 80 ミリ秒のラウンドトリップ (RTT) 要件を満たしており、データベース複製に対応する十分な帯域幅があることを確認します。	<p>80 ミリ秒の RTT 要件の詳細については、<a href="https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-implementation-design-guides-list.html">https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-implementation-design-guides-list.html</a> で、<i>Cisco Unified Communications Solutions Reference Network Design</i> を参照してください。</p>
ステップ 6	パブリッシャ ノードで NTP ステータスを確認します。	<p>パブリッシャ ノードが NTP サーバとの同期に失敗すると、サブスクリバ ノードのインストールが失敗する可能性があります。Unified Communications</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		Manager パブリッシャノードで、 <code>utils ntp status</code> という CLI コマンドを実行します。
<b>ステップ 7</b>	次のファイアウォールの更新を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ファイアウォールがノード間のルーティングパスにある場合は、ファイアウォールを無効にします。</li> <li>インストールが完了するまでは、ファイアウォールのタイムアウト設定を大きな値にしておきます。</li> </ul>	ノードで発着信されるネットワークトラフィックを一時的に許可する（たとえば、これらのノードのファイアウォールルールを <code>IP any/any</code> に設定する）だけでは、必ずしも十分ではありません。ファイアウォールが、タイムアウトのために、ノード間で必要なネットワークセッションを閉じる可能性があります。
<b>ステップ 8</b>	Unified Communications Manager をインストールしているサーバ間でネットワークアドレス変換 (NAT) およびポートアドレス変換 (PAT) を実行しないでください。	
<b>ステップ 9</b>	NIC の速度とデュプレックス設定を確認します。	ネットワークインターフェイスカード (NIC) の速度とスイッチポートの二重化設定が新しいサーバに設定する予定のものと同じであることを確認します。  GigE (1000/FULL) の場合、NIC およびスイッチポートの設定を <code>Auto/Auto</code> に設定する必要があります。固定値を設定しないでください。
<b>ステップ 10</b>	シスコサーバに接続されているスイッチポートでは、すべて PortFast を有効にしてください。	PortFast を有効にすることで転送遅延 [スパニングツリープロトコル (STP) の学習状態およびリッスン状態から転送状態に変化するまで、ポートが待機する時間] がなくなり、スイッチによりポートはブロック状態から転送状態にすばやく切り替えられます。
<b>ステップ 11</b>	DNS を使用する場合、Unified Communications Manager のインストールを予定しているすべてのサーバが、DNS で適切に登録されていることを確認します。	詳細については、 <a href="#">DNS 登録の確認 (6 ページ)</a> を参照してください。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 12	ライセンス要件	十分なライセンスがあることを確認します。

## IM and Presence Service のインストール前の作業

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	設置の計画	<p>計画の章を参照してください。次のことを確認する確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インストール方法とクラスタ トポロジを決定します。</li> <li>IM and Presence の場合、標準的な導入と、IM and Presence Service 中央クラスタを含めるインストールのどちらにするかを決定します。</li> <li>要件および制約事項を確認します。</li> </ul>
ステップ 2	サポートされるバージョン	Unified Communications Manager と IM and Presence ソフトウェアのバージョンに互換性があることを確認します。
ステップ 3	必要なインストール情報	IM and Presence Service のインストールと設定に必要なすべての情報を収集します。
ステップ 4	仮想マシンを作成します。	<p>クラスタ内のすべてのノードについて、現在のリリースに推奨される仮想サーバ テンプレート (OVA ファイル) を使用して仮想マシンを作成します。</p> <p>異なる OVA ファイルを使用できます。Unified Communications Manager を導入している環境に基づいて適切な OVA ファイルを選択します。詳細については、<a href="https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/virtualization-cisco-unified-communications-manager.html">https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/virtualization-cisco-unified-communications-manager.html</a> を参照してください。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	ネットワークの接続性を確認します。	それぞれの IM and Presence Service サーバーが Unified Communications Manager のパブリッシャ サーバーにネットワーク アクセスできることを確認します。他の IM and Presence Service サーバーから Unified Communications Manager パブリッシャ ノードに ping を実行します。
ステップ 6	<a href="#">Cisco AXL Web サービスの有効化 (5 ページ)</a>	Cisco AXL Web サービスが有効になっていることを確認します。
ステップ 7	<a href="#">DNS 登録の確認 (6 ページ)</a>	<p>DNS を使用する場合は、DNS サーバーで新しい IM and Presence Service サーバーのホスト名を設定したことを確認します。また、DNS サーバーが、Unified Communications Manager パブリッシャ サーバーのホスト名、および他の IM and Presence Service サーバー（存在する場合）のホスト名を解決できることを確認します。</p> <p>(注) IM and Presence Service と Unified Communications Manager で同じ DNS サーバーを使用することを推奨します。異なる DNS サーバを使用すると、システムの動作に異常が発生する場合があります。混合モードの導入はサポートされていないため、DNS を Unified Communications Manager と IM and Presence Service の両方で使用するか、さもなければどちらでも使用しないようにする必要があります。</p>

## Cisco AXL Web サービスの有効化

Cisco AXL Web サービスが実行されていることを確認します。

### 手順

---

- ステップ1 Cisco Unified サービスアビリティ インターフェイスにログインします。
  - ステップ2 [Tools (ツール)] > [Service Activation (サービス アクティベーション)] を選択します。
  - ステップ3 [データベースおよび Admin サービス (Database and Admin Services)] で、[Cisco AXL Web サービス (Cisco AXL Web Service)] ステータスが [アクティブ (Activated)] になっていることを確認します。
  - ステップ4 ステータスが [非アクティブ (Deactivated)] の場合、隣接するチェックボックスをチェックし、[保存 (Save)] をクリックしてアクティベートします。
- 

## DNS 登録の確認

トポロジで DNS を使用する場合は、この手順に実行します。次の手順を実行して、追加するすべてのサーバが DNS で適切に登録されていることを確認する必要があります。

### 手順

---

- ステップ1 コマンドプロンプトを開きます。
  - ステップ2 各サーバに対してその DNS 名で ping を実行するには、ping DNS\_name と入力します。
  - ステップ3 各サーバを IP アドレスで検索するには、nslookup IP\_address と入力します。
-

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。